

第71回

日本伝統工芸展 金沢展

The 71st Japan Traditional *Kōgei* Exhibition.



日本工芸会総裁賞
《鐵地象嵌花器》
原智（石川）

2024年

10月25日〈金〉—11月4日〈月・振休〉

開館時間／9:30 - 18:00（最終入場は30分前まで 最終日は17:00まで）

観覧料／一般 900円（800円） 大学生 600円（500円） 65歳以上 800円 高校生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体

主 催／石川県教育委員会・日本放送協会金沢放送局・朝日新聞社・北國新聞社

公益社団法人 日本工芸会

後 援／富山県教育委員会・福井県教育委員会

石川県立美術館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒920-0963 金沢市出羽町2-1

TEL:076-231-7580

<https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>



文化財保護強調週間
Cultural Properties Protection Week



文部科学大臣賞
《神代杉造箱》 角間泰憲(石川)



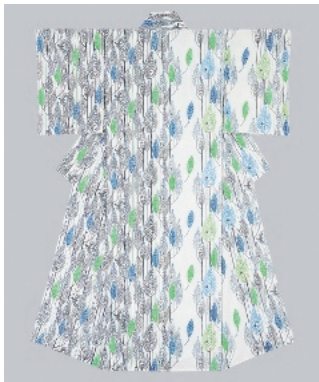
日本工芸会奨励賞
《苳絵箱「盛夏」》 田中義光(石川)



日本工芸会新人賞
《城端蒔絵飾箱「Eclipse」》 小原治五右衛門(富山)



高松宮記念賞
《木苳桐塑和紙貼「あかばな」》
満丸正人(大阪)



東京都知事賞
《型絵染着物「あすなろの森」》
遠藤あけみ(神奈川)



NHK会長賞
《五金彩鉢「遊ぶ月」》
高橋朋子(千葉)



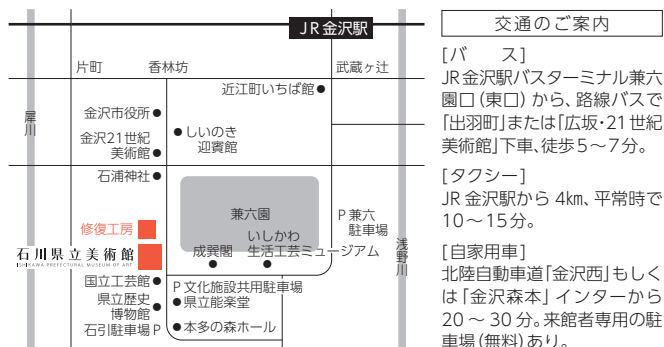
朝日新聞社賞
《螺鈿堆錦箱「汽水域」》
松崎森平(沖縄)



日本工芸会会長賞
《七宝鉢「律」》
安藤令子(宮城)



日本工芸会保持者賞
《銀泥彩磁鬼灯文鉢》
井戸川豊(千葉)



第71回

日本伝統 工芸展 金沢展

The 71st Japan Traditional Kōgei Exhibition.

我が国には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質をもちながら、一瞬もとどまることのないのが本来の姿であります。

伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来の技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受けついで優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。

昭和25年、文化財保護法が施行され、歴史上、若しくは芸術上特に価値の高い工芸技術を、国として保護育成することになりました。私どもは、その趣旨にそって、昭和29年以来、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門にわたり、各作家の作品を厳重鑑査し、入選作品によって日本伝統工芸展を開催してきました。

金沢への巡回展は昭和38年の第10回展から始まり、以降は毎年開催されています。今回は全入選作品539点の内から、重要無形文化財保持者(人間国宝)や受賞者らの秀作に加え、地元北陸の作家を中心とした入選作品286点を展示します。

■ 記念対談

参加無料・申込不要

日時：10月27日(日)
13:30~15:00

演題：「工芸の現在と未来」

講師：山村 慎哉氏(金沢美術工芸大学 学長)
中川 衛氏(重要無形文化財「彫金」保持者)

会場：石川県立美術館ホール



山村 慎哉氏



中川 衛氏

■ 展示作品解説

日時	11:00~	13:30~
10月26日(土)	《染織》毎田 仁嗣	《漆芸》田中 義光
10月27日(日)	《金工》般若 保	第71回展記念対談
10月28日(月)	《人形》高田 和司	《陶芸》吉田 幸央
10月29日(火)	《木竹工》福嶋 則夫	《染織》坂口 裕章
10月30日(水)	《陶芸》田島 正仁	《漆芸》林 曉
10月31日(木)	《染織》四ツ井 健	《陶芸》中田 博士
11月1日(金)	《金工》中川 衛	《木竹工》角間 泰憲
11月2日(土)	《金工》原 智	《漆芸》小森 邦衛
11月3日(日・祝)	《木竹工》中嶋 武仁	《総合》山崎 剛
11月4日(月・振休)	《陶芸》中田 一於	《漆芸》山岸 一男

石川県立美術館

ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

〒920-0963 金沢市出羽町2-1
TEL:076-231-7580

<https://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>